

# 令和2年度 社会福祉法人八康会 事業報告

## 総 括

平成10年8月に特別養護老人ホーム、デイサービスセンター、ケアハウス、在宅介護支援センターを開設した当法人は、その後ヘルパーステーションや居宅介護支援事業所などを開設し、久御山町内の中核的な施設として地域との関わりを深めながら事業運営を行ってきた。

令和元年度から取り組みをはじめた外国人技能実習制度の活用については、新型コロナウイルスの感染拡大による影響で、渡航できない状況が続き、リモートによる面談を定期的に繰り返すなど行ってきた。渡航が可能となった際、速やかに入国できるよう準備をすすめている。

新型コロナウイルス感染防止対策では、利用者や職員の命を守る取り組みを最優先課題として行ってきた。今なお取り組みを継続して行っている。

以下、令和2年度事業計画における【重点項目】についての結果である。

### (利用者サービスの質の向上)

各事業所においては、コロナ禍における利用者の命、尊厳を守る行動、一人ひとりが楽しいと感じる暮らしと、健康で生きがいをもって日々の生活ができるように、利用者サービスの質の向上を図ることを第一に事業展開を図った。又、施設内虐待の未然防止に努め、法人全体の身体的拘束適正化委員会を定期的開催し、職員への全体研修などを通じて、組織をあげて身体拘束ゼロ及びサービスの質の向上に取り組んだ。

### (人材確保)

全国的にも介護関係での人材不足が大きな課題となっており、人材確保は喫緊の課題である。インターネットによる求人や人材紹介等を積極的に活用し、人材確保に努めた一方で、職員の離職防止を含めた対応にも重点的に取り組んだ。職員からの意見を聞き取り、ワークライフバランスに配慮した働きがいのある、魅力ある職場づくりに取り組んだ。しかし、新規の入職者確保には苦慮しており、夜勤勤務者の体制・充実強化が喫緊の課題である。また、当法人は、安心して働ける職場であることを示す「きょうと福祉人材育成認証制度」の認証事業所であり、今後も職場の魅力向上と人材の育成及び定着に努めたい。

### **(危機管理システムの構築)**

各種リスクマネジメント対策の強化や事業を継続的に実施するための取り組みを強化することが求められ、久御山町消防署の指導の下、消防総合訓練を実施し、普段からの自衛消防の緊急初期対応の強化や安全な避難誘導訓練を行った。地域の自主防災訓練が中止されるなど地域との交流機会が少なくなり、今後の課題である。また、災害などの緊急事態に遭遇した場合に、被害を最小限にとどめて事業継続、早期復旧を行うことができるよう備えることが必要であり、小規模事業者とはいえ、事前準備対策や総合的な計画を策定することも引き続きの課題である。

### **(経営の安定化、ガバナンスの確立)**

経営面では、各事業において稼働率低下が顕著にみられている。減収を食い止めるため、特別養護老人ホームにおける入院者数の減少には、一定の成果はみられたものの、退所者発生後の空床運用の進め方やショートステイの稼働率向上を始めとして、課題は残っている。とりわけ通所介護については、病院の医師や理学療法士、あん摩マッサージ師との連携・援助を受けながら、稼働率向上を目指したが、目標に達しておらず、今後も重点課題として取組を強化する。

また、あらゆる分野において経費の削減を徹底することと併せ、目標稼働率の達成や収入増に向けた取り組みの強化が必要である。

### **(地域との連携、地域貢献事業の展開)**

定例の久御山南病院との合同夏まつりをはじめとする地域との交流機会は中止となった。近隣の中学校へ職員が出向き、福祉体験学習をすすめるなどの交流を図った。今後もコロナ禍においては、集合型ではなく出張型の事業を展開し、地域の活性化、つながりの構築に向けて、多様な関係機関、個人との連携・協働を進める必要性が高まっている。

職員が、地域で働いているという意識を強くもち、地域のさまざまな課題を解決していくことが求められている。社会福祉事業だけではなく、制度外のニーズにも対応することなども期待されていることを認識し、久御山町社会福祉協議会や他サービス事業者などと連携しながら、さらに取り組みをすすめていきたい。

今後も、社会福祉法人の責務としての「地域における公益的な取り組み」を進め、地域に信頼される施設づくりを目指すことが重要である。

# 1 特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）

定員 60 名

利用者一人一人に寄り添った介護の充実を図ることに重点を置き、個別処遇計画に基づく個別ケアを中心にサービス提供を行ってきた。職員の負担軽減を考慮しながら、毎月の会議などで業務の見直し、改善を行い、利用者と共に過ごす時間の確保や個別ケアの充実に努めた。サービスの質の低下を招くことなく、一定の効果はみられたが、介護職員の業務負担軽減など離職防止への取り組みは継続中である。

職員の資質向上については、各委員会（事故防止、身体拘束廃止、サービス向上、感染症対策、褥瘡予防対策）の主催や法人研修企画委員会による苑内研修を定期的に行い、職員の自己研鑽への意識、資質向上に繋げることができた。今後も、継続しながら個々のサービス内容の見直しも進め、よりよいサービスの提供を行う。

## (1) 施設利用状況

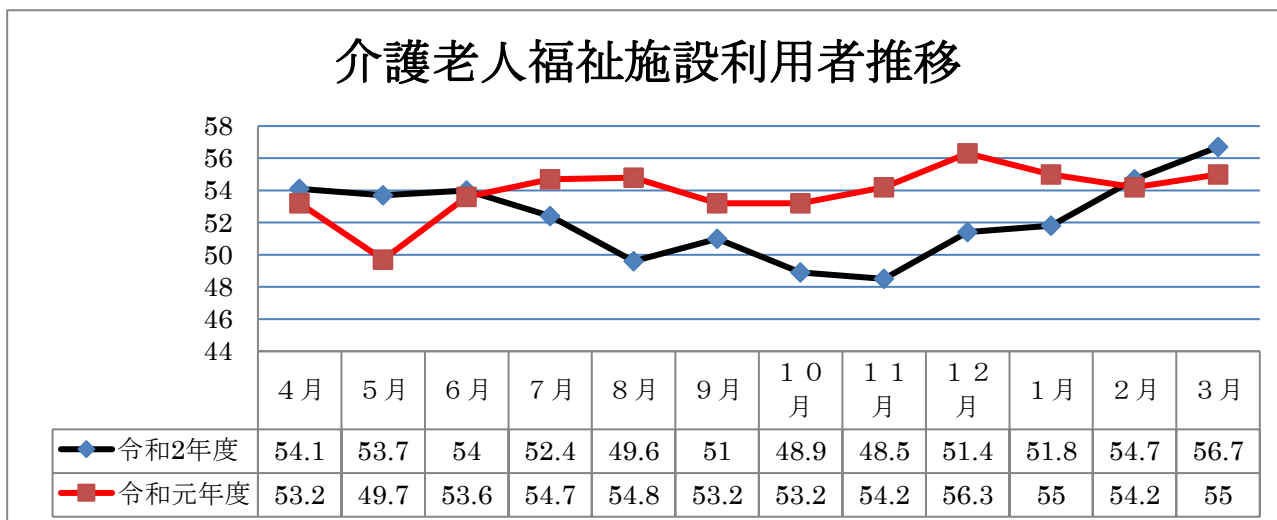
施設の利用状況は、表 1 のとおりである。令和 2 年度の年間延べ利用者数は、19,058 人(前年比-678 人)外泊算定者を合わせた 1 日平均で 52.2 人(同-1.7 人)、ベッド稼働率は 87%(-3%)。平均要介護度は 4.0 であった (同-0.1)。

入退所状況については、9 月から 12 月の退所者が多く、その際のスムーズな受け入れができなかったことが稼働率低下の要因である。入院日数については、多い月で 170 人を超える月もあったが、年間では 1,196 日 (同-436 日) と減少。令和 3 年度は、日常の健康管理や入退院時の医療との連携、又、口腔ケアの技術の向上やリハビリの強化を図ることで、誤嚥性肺炎のリスクを軽減し、入院日数のさらなる減少を図り、稼働率向上につなげていきたい。

表 1 介護老人福祉施設の利用状況

特養		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
令和 2 年度	延利用者数	1623	1665	1619	1623	1539	1529	1515	1454	1594	1606	1532	1759	19,058
	稼働日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
	1日平均(人)	54.1	53.7	54.0	52.4	49.6	51.0	48.9	48.5	51.4	51.8	54.7	56.7	52.2
	入院日数	60	84	61	128	140	139	172	145	93	69	70	35	1,196
	稼働率%	90%	90%	90%	87%	83%	85%	81%	81%	86%	86%	91%	95%	87%
前年度1日平均(人)		53.2	49.7	53.6	54.7	54.8	53.2	53.2	54.2	56.3	55.0	54.2	55.0	53.9
入所者数		2	1	0	1	2	2	0	4	4	3	2	3	24
退所者数		1	0	1	1	2	2	6	1	4	0	1	0	19

図1 介護老人福祉施設の利用者数の推移



## (2) 利用者の生活の状況

令和2年度の事業計画の重点項目「一人一人に寄り添った介護の充実を図る」に基づき、個別ケアの充実に取り組んだ。担当者会議等で個別処遇計画の見直しを行い、よりよい生活を送るために何が必要で何をすべきかということに重点を置いて、見直しを行った。

施設内の生活としては、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、苑外行事は中止となったが、苑内行事にて少しでも季節感を感じていただけるように、8月に夏祭り、10月には運動会、12月にクリスマス会、2月には節分お楽しみ会などが実施できたことは苑外へ出かけることができない中、利用者も非常に喜ばれていた様子であった。

表2 年間行事

4月	お花見（近隣へ散歩）、おやつ作り（たこ焼き）
5月	おやつ作り（和菓子バイキング）
6月	おやつ作り（みたらしいも）
7月	おやつ作り（フラッペ）
8月	夏祭り
9月	敬老祝賀式、おやつ作り（どら焼き）
10月	運動会、おやつ作り（ところてん）
11月	おやつ作り（スイートポテト）
12月	クリスマス会、おやつ作り（フルーツポンチ）
1月	お正月遊び、おやつ作り（たこ焼き）
2月	節分お楽しみ会
3月	おやつ作り（八つ橋）

表3 利用者の状況（R3.3.31現在）

<日常生活>

	自立	一部介助	全介助
食事	10	39	11
移乗	7	23	30
着脱	2	7	51
寝返り	8	19	33
入浴	0	5	55
排泄	2	18	40
移動	7	17	36
	なし	歩行器等	車椅子
歩行補助具	2	4	54
	自立	トイレ介助	おむつ交換
排泄(昼)	2	30	28
排泄(夜)	2	7	51
	一般浴	座位浴	臥位浴
入浴種類	0	29	31

<要介護状況>

要介護1	0
要介護2	0
要介護3	14
要介護4	31
要介護5	15
要介護平均	4.0

<平均年齢>

	最高年齢	最低年齢	平均年齢
男	96	75	85.1
女	110	70	89.6
			88.9

<性別、年齢及び入所期間>

区分	～1年未満	1年以上～ 3年未満	3年以上～ 5年未満	5年以上～ 10年未満	10年以上～ 15年未満	15年以上～
60～64歳 男						
60～64歳 女						
65～69歳 男						
65～69歳 女						
70～74歳 男						
70～74歳 女	1	2				
75～79歳 男		2				
75～79歳 女	1					
80～84歳 男	1					
80～84歳 女	3		2	1		
85～89歳 男	3	1	1	1		
85～89歳 女	5	3	6	3	1	2
90～94歳 男						
90～94歳 女	2	1	2	1		
95～99歳 男	1					
95～99歳 女	6	3	2	2		
100～104歳 男						
100～104歳 女						
105～歳 男						
105～歳 女				1		
	23	12	13	9	1	2

<認知症高齢者の日常生活自立度>

区分	自立	I	IIa	IIb	IIIa	IIIb	IV	M	その他	合計
男	0	1	1	0	3	3	2	0	0	10
女	2	6	5	6	12	7	12	0	0	50

<障害高齢者の日常生活自立度>

区分	自立	J1	J2	A1	A2	B1	B2	C1	C2	その他	合計
男	0	0	0	0	2	2	4	1	1	0	10
女	0	0	0	4	6	13	20	1	6	0	50

### (3) 健康管理について

定期的な健康管理として、毎年4月に一般健康診断を行っている。何か異常があれば追加検査を行い、嘱託医より家族に説明し、今後の治療方針を相談・決定している。

NST会議（栄養サポートチーム会議）を継続し、特養利用者60名の既往歴に基づいた追跡検査などを行い、健康管理をすることで再発など予防していくことを目的としている。

入院者数について、延べ32人実人数27人（入院病名として肺炎、気管支炎・骨折・酸素濃度低下、尿路感染など）月平均5.7名入院している。退所者については、19名（入院中死亡者15名、施設内看取り対象者3名、長期間入院加療対象者1名）であった。入院日数は前年と比べ減少しているが、100日を超える月が5ヶ月あり、稼働率に影響が出ている。

感染対策としては、地域での感染症情報の収集、施設内の状況把握、感染症の知識を職員で共有するなど、感染症対策委員会を中心に行ってきた。新型コロナウイルス感染症については、毎週対策会議を開催し、法人全体として対策に取り組んだ。職員1名の発症はあったが、利用者・職員全員に対し、早急にPCR検査を実施する等、感染拡大することなく収束を迎えることができた。今後も継続的な感染防止対策会議の実施や協力医療機関、行政等関係機関との連携を密に図り、感染予防の徹底に努めていきたい。

看取り介護について、毎月の看取り介護委員会の開催、指針の見直し点検や職員にむけての研修（苑外・苑内）を行った。令和2年度は、3名の看取り介護を行ったが、令和3年度もさらなる体制の構築に取り組んでいきたい。

### (4) 栄養管理について

食事提供では、平均栄養基準と実績（カッコ内）は、熱量 1554kcal(1639cal) たんぱく質 51g(66.8g)であった。利用者個々の身体状況、嗜好に配慮した食事提供ができた。又、嚥下・咀嚼機能の変化、疾病状況の変化に添い、迅速に対応できるよう給食委託業者と調整を行った。

厨房内の衛生管理については、委託業者内研修や情報提供などで、感染予防に努め対応できた。これからも衛生面や環境整備に取り組み、感染予防に努めていきたい。

栄養ケアマネジメントでは、個々の栄養管理について、久御山南病院との連携や多職種で構成される担当者会議において、食種の経緯・体重変化・血液データ・栄養状態のレベル、栄養ケアの経過報告などを基に今後の改善目標を設定し、一人一人の利用者の状況変化に対し、健康維持・疾病予防・栄養改善のための具体的な提供方法を検討し、実施してきた。又、摂食・嚥下障害対象者には、多職種による協働で口から食べる支援を経口維持計画を立て、実施することで、さらに栄養管理を強化していくことができた。

<お誕生日食・行事食>

4月お誕生日食	4月24日	松花堂弁当
節句の日	5月5日	ちらし寿司、鯛の潮汁、柏餅
5月お誕生日食	5月18日	松花弁当(押し寿司、鯛の有馬焼き等)
6月お誕生日	6月20日	洋食ランチ(鯛のポワレもしくは煮込みハンバーグ)
7月行事食	7月7日	七夕そうめん
7月お誕生日食・土用の丑	7月21日	鰻重弁当
8月お誕生日会	8月20日	精進散らし、小鯛の塩焼き、洋風冷やし茶碗蒸し、賀茂ナス等
9月お誕生日会・敬老祝賀式	9月10日	お祝い膳(赤飯、鯛の塩焼き、天ぷら)
10月お誕生日会	10月19日	松花堂弁当(きのこごはん、刺身盛り合わせ等)
11月お誕生日会	11月26日	寿司握り盛り合わせ
クリスマスパーティー	12月24日	クリスマスランチ
お正月	1月1, 2, 3日	お節料理(お雑煮、海老さより手綱等)
1月お誕生日会	1月26日	海鮮丼
節分の日	2月2日	巻き寿司、いなり寿司等
2月お誕生日会	2月22日	松花堂弁当(蟹と生姜の炊き込みご飯、刺身等)
お雛様の日	3月3日	五目散らし寿司、炊き物(鯛の子、ふき)
3月お誕生日会	3月20日	すき焼き盛り合わせ

その他：選択食・おやつ作りなど月2回実施した。

食事内容(特養) R3. 3. 31現在 (人)

主食							副食						胃ろう
米飯	軟飯	全粥	おにぎり	パン	パン粥ベースト	パン粥ゼリー	L5(普通)	L5(一口大)	L4b(軟菜食)	L4a(ソフト食)	L3(ペースト食)	L2(ゼリー食)	
10	12	21	2	2	8	1	6	8	21	10	9	2	2

(入院利用者2名除く)

特別治療食

心臓食(塩分制限食)	脂質異常食	糖尿病食	膵臓・肝臓食	貧血食	腎臓食
14	1	6	0	1	0

## 2 ショートステイ（短期入所生活介護、介護予防短期入所生活介護）

定員 10 名

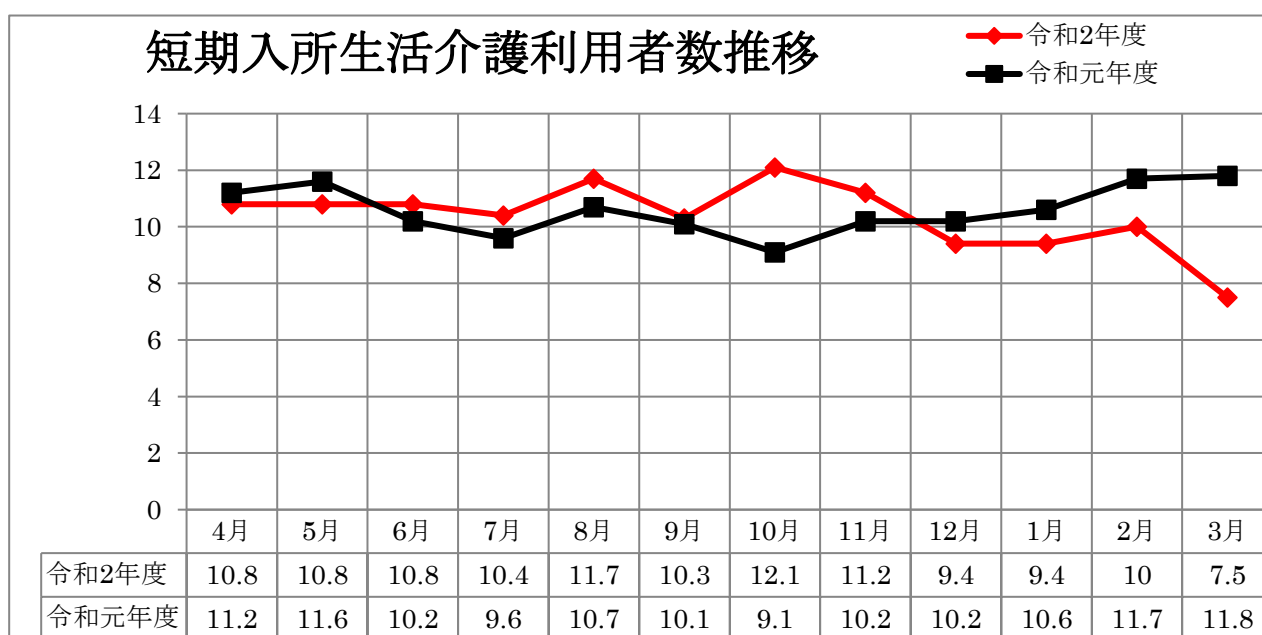
利用者数は、表 4 のとおりである。年間のベッド稼働率は 104%(前年比-2%) 延べ利用者数は 3,786 人(同-83 人) の方に利用していただいた。

稼働率に関して、昨年度より低下したため、今後もケアマネジャーに対しての働きかけや近隣市町村の居宅介護支援事業所および医療機関などへの利用者獲得の働きかけを続けながら、利用者数増加に繋げていきたい。

表 4 短期入所生活介護利用者の状況

ショート		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
令和 二 年度	利用者 数実績	323	336	324	322	364	310	376	337	291	292	280	231	3,786
	稼働日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
	1日平均(人)	10.8	10.8	10.8	10.4	11.7	10.3	12.1	11.2	9.4	9.4	10.0	7.5	10.4
	稼働率%	108%	108%	108%	104%	117%	103%	121%	112%	94%	94%	100%	75%	104%
前年度1日平均(人)		11.2	11.6	10.2	9.6	10.7	10.1	9.1	10.2	10.2	10.6	11.7	11.8	10.6

図 2 短期入所生活介護利用者数の推移





### 3 デイサービスセンター（通所介護、第1号通所型サービス） 定員 25名 定員 5名

令和2年度は、7つの重点項目を掲げた。

- 1) 「利用者、家族の立場に立ったケアの提供」；外出行事は、コロナウイルス感染防止のため、年3回のイオン買物や9月のみまきこども園交流会など実施できなかった。代替え行事としておやつ作りを実施した。毎月のサービス向上委員会の中で、満足度向上のための取り組みを行った。
- 2) 「利用人数の増加」；新規利用者数は令和元年度と比べ増加したが、入院や体調不良、コロナウイルス感染症への感染が心配で利用自粛するなど休みが増え、その空きをうまく埋めることができなかった。その為、年間延べ人数は減少した。
- 3) 「機能訓練の充実」；在宅での状態を確認しながら様々なメニューを準備し、訓練を行うことができた。又、生活機能向上連携加算の算定についても、理学療法士との協議の中で、訓練内容の検討や実施状況など評価を行うことができ、取り組みをすすめることができた。
- 4) 「地域とのつながり」；令和2年度は、外出行事が行えず、民生児童委員などのボランティアや介護サポーターの来苑も中止となった。地元の音楽療法士の訪問により、主に認知機能低下防止、また、利用者及び職員との交流の場を持つことができた。
- 5) 「安心、安全なサービス提供」；毎月の事故防止対策委員会にてヒヤリハット事例などの検証を行うことができた。
- 6) 「職員の育成」；定例会議や各種委員会（事故防止、サービス向上、感染症対策、身体拘束廃止）の中で、研修や勉強会を実施し、職員の資質向上やサービス向上の取り組みを行うことができた。
- 7) 「新総合事業について」；利用の依頼や希望に対し、久御山町地域包括支援センターと連携を図り、早急に受け入れの対応ができた。

#### (1) 利用状況

利用者数は下表1のとおりである。

##### 【7～8時間デイ】

年間延べ利用者総数 5,388人（前年比－205人）、1日当たりの平均利用者数は、年間平均で17.8人（前年比－0.4人）であった。このうち、通所型サービスの利用者は、年間で899人（前年比－24人）で総利用者数の16.6%であった。

【3～4 時間デイ】

年間延べ利用者総数 96 人（前年比－190 人）、1 日当たりの平均利用者数は、年間平均で 0.3 人（前年比－0.7 人）であった。このうち、通所型サービスの利用者は、年間で 48 人（前年比－77 人）で総利用者数の 50%であった。

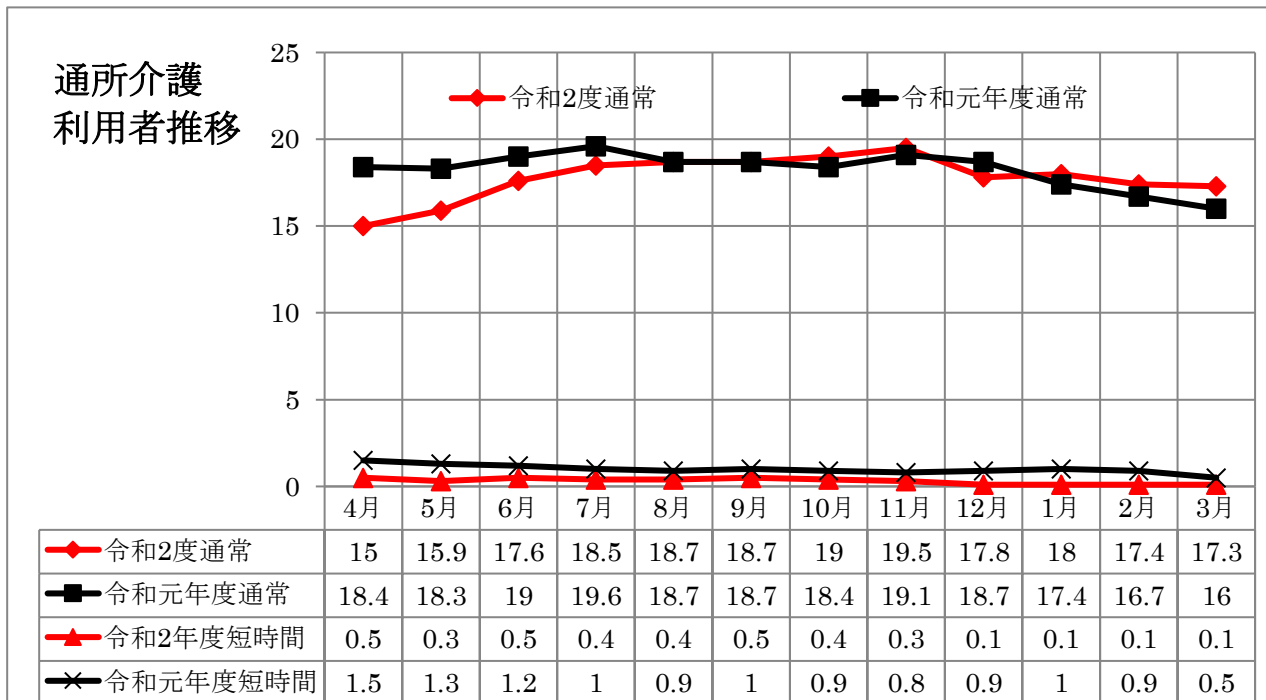
表 1

【7～8時間デイ】

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
令和2年度	延利用者数	391	397	460	499	486	485	518	409	427	432	417	467	5,388人
	稼働日数	26	26	26	27	26	26	26	22	24	24	24	27	304日
	1日平均	15.0	15.9	17.6	18.5	18.7	18.7	19.0	19.5	17.8	18.0	17.4	17.3	17.8人
	稼働率(%)	57.6	61.6	70.4	74.0	75.0	75.0	76.2	78.0	71.2	72.0	69.5	69.3	70.8%
令和元年度		18.4	18.3	19	19.6	18.1	18.2	18.4	19.1	18.7	17.4	16.7	16	18.2人

【3～4時間デイ】

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
令和2年度	延利用者数	12	9	13	11	10	14	9	6	3	3	2	4	96人
	稼働日数	25	23	26	25	25	24	26	16	24	23	22	26	285日
	1日平均	0.5	0.3	0.5	0.4	0.4	0.5	0.4	0.3	0.1	0.1	0.1	0.1	0.3人
	稼働率(%)	10.0	6.0	10.0	8.0	8.0	10.0	8.0	5.3	2.5	2.5	1.7	2.1	6.2%
令和元年度		1.5	1.3	1.2	1.0	0.9	1.0	0.9	0.8	0.9	1.0	0.9	0.5	1.0人



男性	0名	3名	1名	8名	4名	1名	2名	0名	84.4歳
女性	1名	2名	0名	10名	13名	9名	3名	0名	86.2歳
計	1名	5名	1名	18名	17名	10名	5名	0名	85.5歳

表3【介護度】

	事業対象者	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	平均介護度
男性	0名	1名	5名	1名	5名	5名	2名	1名	2.3
女性	0名	2名	2名	3名	10名	16名	3名	1名	2.1
計	0名	3名	7名	4名	15名	21名	5名	2名	2.2

表4【利用期間】

	1年未満	1年以上3年未満	3年以上5年未満	5年以上7年未満	7年以上10年未満	10年以上
男性	1名	9名	1名	3名	3名	2名
女性	13名	7名	3名	9名	4名	2名
計	14名	16名	4名	12名	7名	4名

表5【日常生活】

食事			排泄			入浴			着脱			移動						
自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	全介助	一般浴	車椅子浴	ストレッチャー浴	自立	一部介助	全介助	独歩		杖・歩行器		車椅子		
												自立	一部介助	自立	一部介助	自立	一部介助	全介助
53名	3名	1名	41名	10名	6名	37名	20名	0名	28名	25名	4名	15名	1名	17名	9名	3名	5名	7名

(2) 行事報告

4月	近隣散歩
5月	おやつ作り: 桜餅
6月	おやつ作り: 八つ橋
7月	おやつ作り: 抹茶白玉あんみつ
8月	夏祭り
9月	デイサービス敬老会
10月	運動会
11月	紅葉見学
12月	クリスマス会
1月	新年会
2月	おやつ作り: 串カステラ
3月	おやつ作り: どらやき

## 4 ケアハウス

定員 15 名

令和 2 年度は、入居利用者の心身の加齢に伴う虚弱化で、入退院を繰り返すなど新型コロナウイルスによる外出行事の中止など日常生活への影響が大きかった、年間を通じて要介護 4 が 1 名、要介護 3 が 5 名となり、今後も更なる重度化傾向が進むことは予想される。また、医療機関へ延命処置や終末期医療について、文書で明確に意思表示をしている方が複数おられるのも特徴である。

### 1. ケアハウス入退居状況

令和 2 年度は、退居者が 7 名（逝去 2 名、他 5 名）で入居者は 6 名であった。主な退居理由は、重度化に伴いケアハウスでの生活が難しく特養への入居や治療中の病気が悪化し急逝されたケースである。

（各月初定員：15 名利用 年間 180 名利用）

表 1 入居年数

年度末在籍者調べ以下同

入居年数	～3年未満		3年～		6年～		9年～		12年以上		合計	
	元年度	2年度	元年度	2年度	元年度	2年度	元年度	2年度	元年度	2年度	元年度	2年度
入居者数	5	6	4	3	1	2	1		4	3	15	14
年度別全体比	32%	43%	27%	21%	7%	15%	7%	0%	27%	21%	100%	100%

表 2 入居年数と介護度

入居年数	～3年未満		3年～		6年～		9年～		12年以上		合計	
	元年度	2年度	元年度	2年度	元年度	2年度	元年度	2年度	元年度	2年度	元年度	2年度
自立											0	0
要支援1	1			1					2		3	1
要支援2	1	1	2		1				1	2	5	3
要介護1	1	3	1			1				1	2	5
要介護2	1	2	1	2							2	4
要介護3	1					1	1		1		3	1
要介護4											0	0
要介護5											0	0
合計	5	6	4	3	1	2	1	0	4	3	15	14
要介護2以上の割合	32%	43%	27%	21%	7%	15%	7%	0%	27%	21%		

表 3 入居年数と年齢

入居年数	～3年未満		3年～		6年～		9年～		12年以上		合計	
	元年度	2年度	元年度	2年度	元年度	2年度	元年度	2年度	元年度	2年度	元年度	2年度
60歳～84歳	1	2	2			1	1		1	1	5	4
85歳～89歳	1	1		1	1				1		3	2
90歳～94歳	3	2	2	2		1				1	5	6
95歳～		1							2	1	2	2
合計	5	6	4	3	1	2	1	0	4	3	15	14

## 2. 利用者の所得階層 月別稼働率一覧

表4 サービス提供に要する費用

対象収入(年収)の所得階層区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	令和元年	2年度	個人徴収額
150万円以下	1	2	2										2	10%	3%	7,000円
		5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	4	32%	35%	10,000円
150～160万円	2	1	1	1		1	1	1	1	1	1	1	1	5%	7%	13,000円
160万1円～170万円	3	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12%	9%	16,000円
170万1円～180万円	4	1	1	1	3	3	3	3	3	3	3	3	3	10%	19%	19,000円
180万1円～190万円	5													2%		22,000円
190万1円～200万円	6				1	1	1	1	1	1	1	1	1	5%	5%	25,000円
210万1円～220万円	8				1	1	1	1	1	1	1	1	1	1%	5%	35,000円
230万1円～240万円	10	3	3	3										13%	5%	45,000円
240万1円～250万円	11				1	1	1	1	1	1	1	1	1	3%	5%	50,000円
280万1円～290万円	15													2%		50,000円
290万1円～300万円	16	1	1	1										5%	2%	85,000円
310万1円以上	18				1	1	1	1	1	1	1	1	1		5%	89,300円
	計	15	15	13	13	14	14	14	14	14	14	14	15	100%	100%	
稼働率		100%	100%	87%	87%	93%	93%	93%	93%	93%	93%	93%	100%	100%		

(注) 1) 権利擁護事業利用：1名 生活保護：1名

2) 月負担額は、サービス提供費用＋生活費＋居住費＋水光熱費を含み11万円までが大半 (10,000～85,000) +44,810+28,000+水光熱費(平均5,000)

## 3. 介護保険サービス利用者数

表5 実利用者数(年度末)

サービス内容	R1	R2
訪問介護	12	13
訪問看護	1	2
通所介護	10	7
福祉用具貸与	12	11
在籍者数	14	14

表6 利用回数(年度末)

週		1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	合計(人)
訪問介護	R1	5	1	1			1	4	12
	R2	5	2	3		1		2	13
訪問看護	R1	1							1
	R2	1	1						2
通所介護	R1		3	6		1			10
	R2	2	3	1			1		7

## 4. 健康管理の実施

(ア) 年1回の特定健診を受診。結果を各自で主治医へ報告。必要に応じ肺炎球菌の予防接種を受けている。

(イ) インフルエンザの予防接種を行い、また、感染症防止のため手洗いの励行や消毒に努めた。

(ウ) 食事摂取量の変化は、健康のバロメーターと考え、異常に摂取量が少ない日が継続しないか観察した。

## 5、避難訓練

水害対応訓練含め、年3回の全館避難訓練を実施した。内1回は、夜間想定訓練を実施。その他、ケアハウス単独の避難訓練を1回実施した。

## 6、行事報告

新型コロナウイルスの関係で外出の自粛や行事などの中止もあり、計画通りの実施が出来なかった。入居者が、それぞれのやりたいことを継続でき、生きがいを持ち、楽しく日常生活を過ごして頂けるようにコミュニケーションをとりながら活動していけるよう各種の行事を実施した。

表7 年間行事一覧表

年 月	主な行事内容
4 月	買物代行・昼食行事・懇談会
5 月	買物代行・昼食行事・懇談会
6 月	買物代行
7 月	買物代行・懇談会
8 月	買物代行・ケアハウス単独避難訓練
9 月	買物代行・法人全体水害訓練・敬老行事・懇談会
10 月	買物代行・昼食行事・法人全体避難訓練
11 月	買物代行
12 月	買物代行・懇談会・インフルエンザ予防接種・クリスマス会
1 月	買物代行・昼食行事
2 月	買物代行・昼食行事
3 月	買物代行・昼食行事・懇談会・法人全体避難訓練

## 5 ヘルパーステーション（訪問介護、訪問型サービス）

令和2年度については、新型コロナウイルス感染症による影響もあり、週2回から週1回へ定期訪問回数の変更や一人暮らしなどで訪問回数の多かった利用者が、特別養護老人ホームや介護老人保健施設へ入所、医療機関へ入院するなどもあり、訪問回数（同-952）は減少した。しかし、新たな利用や利用再開者など利用者数（前年度比+20）は増加している。

前年度に続き、新しい居宅介護支援事業所のケアマネジャーとの関わりや現利用者の増回利用などには対応できたため、利用者に安心していただくことはできたと思われる。

また、在宅での看取り支援については、年度末に支援が始まるなど件数は少なかったが、依頼に応じて対応できた。

今後の課題としては、訪問介護員の増員及び離職防止への取り組みを強化し、新規の依頼や日曜日・祝日、夕方から夜間時間帯の訪問が、より安定して提供できるような態勢の構築が必要である。

訪問介護員の研修については、新型コロナウイルス感染症の影響でこれまでの集合型研修ができず、当初は開催方法など戸惑ったが、コロナ禍における個別対応を行うことにより、知識及び実技向上に繋がったため、さらに内容を充実させスキルアップを図っていきたい。

### 1、研修内容

日 時	事業所内研修	外部研修
4月	コロナ渦のため中止	
5月	随時 口腔ケアについて(コロナ渦のため個別に研修)	
6月	随時 熱中症・脱水・食中毒について(コロナ渦のため個別に研修)	
7月	随時 ヘルパーの行う生活援助について(法令遵守)(コロナ渦のため個別に研修)	
8月	随時 ヘルパーアンケートについて(コロナ渦のため個別に研修)	
9月	随時 認知症ケアについて(コロナ渦のため個別に研修)	サービス提供責任者研修
10月	随時 調理の工夫(コロナ渦のため個別に研修)	サービス提供責任者研修
11月	随時 感染症について(コロナ渦のため個別に研修)	サービス提供責任者研修
12月	随時 ケース会議(コロナ渦のため個別に研修)	サービス提供責任者研修
1月	随時 ①接遇について②ケース会議(コロナ渦のため個別に研修)	サービス提供責任者研修
2月	随時 KYTについて(コロナ渦のため個別に研修)	サービス提供責任者研修
3月	随時 ヒヤリハットについて(コロナ渦のため個別に研修)	

2、ヘルパー派遣利用者数

(単位:名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用者数(介護)	52	48	46	52	51	55	63	64	67	60	57	63	678
利用者数(予防)	39	38	34	34	37	39	37	37	42	45	42	45	469
合計	91	86	80	86	88	94	100	101	109	105	99	108	1,147

3、ヘルパー訪問回数

(単位:回)

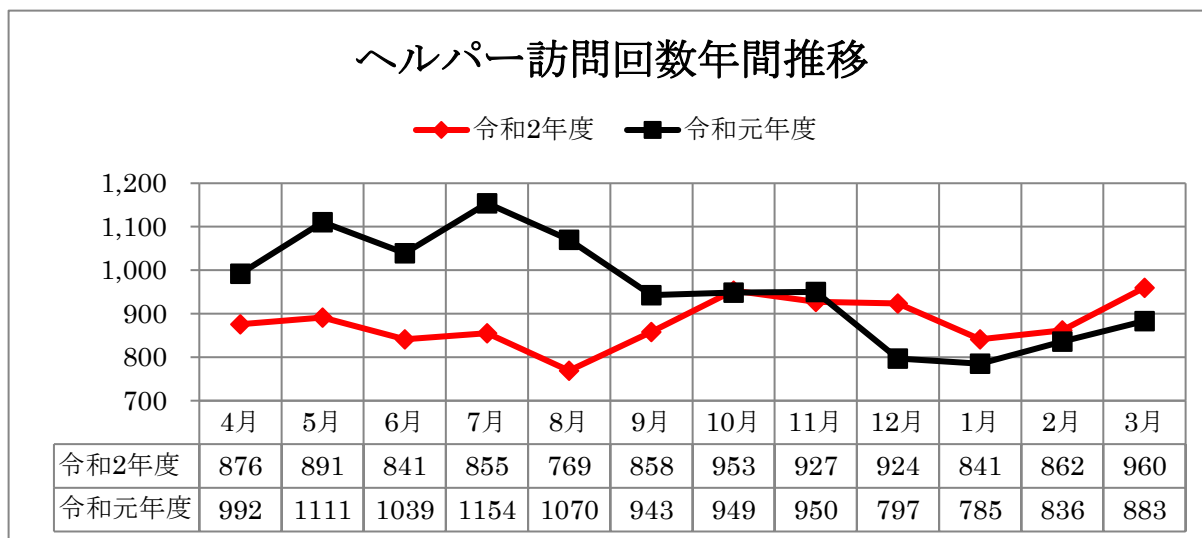
訪問回数	内 容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	身体介護	333	329	341	355	344	382	450	443	446	413	396	432	4,664
身体生活	159	191	135	108	83	97	102	102	100	76	89	88	1,330	
生活援助	384	371	365	392	342	379	401	382	378	352	377	440	4,563	
合計(回)		876	891	841	855	769	858	953	927	924	841	862	960	10,557

4、ヘルパー訪問回数前年度比較(図1)

(単位:回)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和2年度	876	891	841	855	769	858	953	927	924	841	862	960	10,557
令和元年度	992	1,111	1,039	1,154	1,070	943	949	950	797	785	836	883	11,509
増 減	-116	-220	-198	-299	-301	-85	4	-23	127	56	26	77	-952

図1 ヘルパー累計訪問回数





## 6 居宅介護支援事業所

今年度は給付管理件数 139 件／月を目標にしていたが、在宅復帰困難な入院や近隣市町村の介護老人保健施設やサービス付高齢者住宅、有料老人ホーム等施設への入所者数増加、また、介護支援専門員退職後の採用が年度途中まで行えなかったことによる影響で、月平均 94 件と目標に達することはできなかった。給付管理票提出件数は、1118 件(前年比-332 件)と減少。予防給付は、前年度の月平均 44 件から 24 件と減少した。

介護支援業務においては、新型コロナウイルス感染症の影響により、ターミナル支援を含む医療機関退院後の支援などが病院内で退院カンファレンスができない期間があったことで、各関係機関およびサービス提供事業者との調整を要する機会が増加した。定例会議や研修伝達会議、事例検討会などを定期的に行い、事例の振り返り・確認を行うことができ、利用者の情報や支援内容を共有することができた。担当者のみならず、事業所全体で支援を行う取り組みができた。

課題としては、定例会議のあり方や事例検討など内容の充実を図り、地域や他職種との連携、質の高いケアマネジメントが実践できる取り組みを行っていく必要がある。

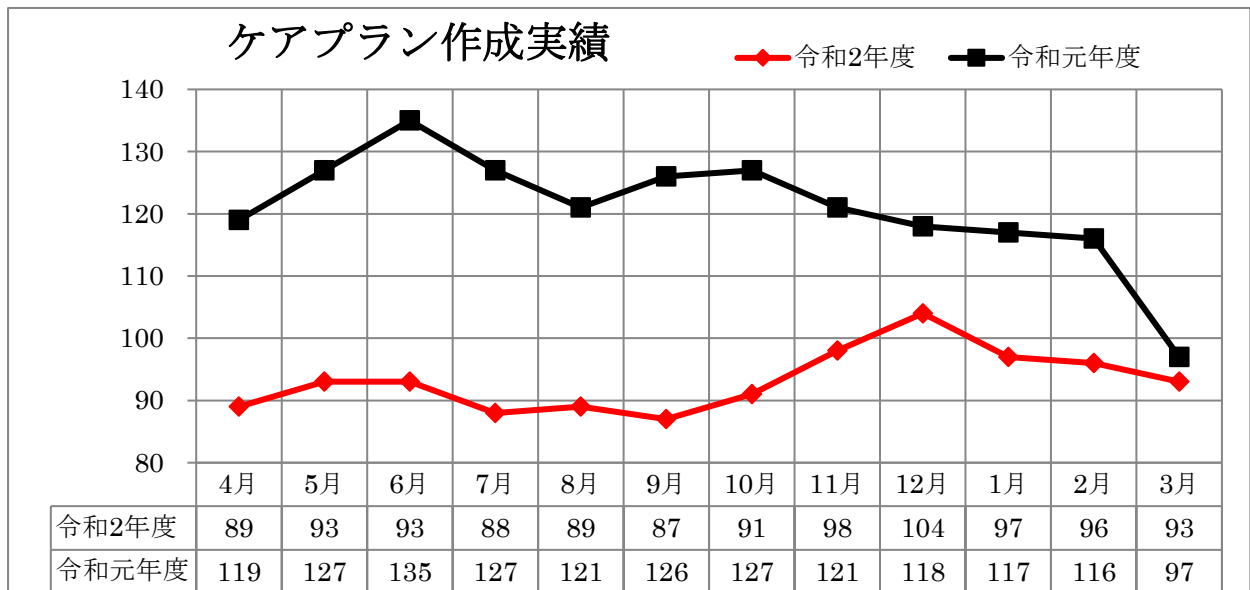
### 1. ケアプラン作成実績 (図1)

(単位:件)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和2年度	89	93	93	88	89	87	91	98	104	97	96	93	1,118
令和元年度	119	127	135	127	121	126	127	121	118	117	116	97	1,451

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護1	令和2年度	15	15	16	15	14	12	16	19	24	21	21	17	205
	令和元年度	24	26	27	24	22	21	25	23	22	24	18	16	272
要介護2	令和2年度	33	34	34	33	33	34	33	35	37	38	33	37	414
	令和元年度	44	44	44	45	43	47	43	45	43	43	44	35	520
要介護3	令和2年度	28	30	30	29	33	32	31	31	34	28	32	30	368
	令和元年度	26	30	34	31	31	33	33	30	30	29	33	29	369
要介護4	令和2年度	7	8	7	5	3	3	3	4	2	3	3	2	50
	令和元年度	19	20	20	18	17	18	19	16	16	13	12	11	199
要介護5	令和2年度	6	6	6	6	6	6	8	9	7	7	7	7	81
	令和元年度	6	7	10	9	8	7	7	7	7	8	8	6	90
居宅介護支援 介護給付費別 (年間総数)		令和2年度	介護度 1~2				619	介護度 3~5				499	合計	1,118
		令和元年度	介護度 1~2				793	介護度 3~5				658	合計	1,451

図1 ケアプラン作成実績

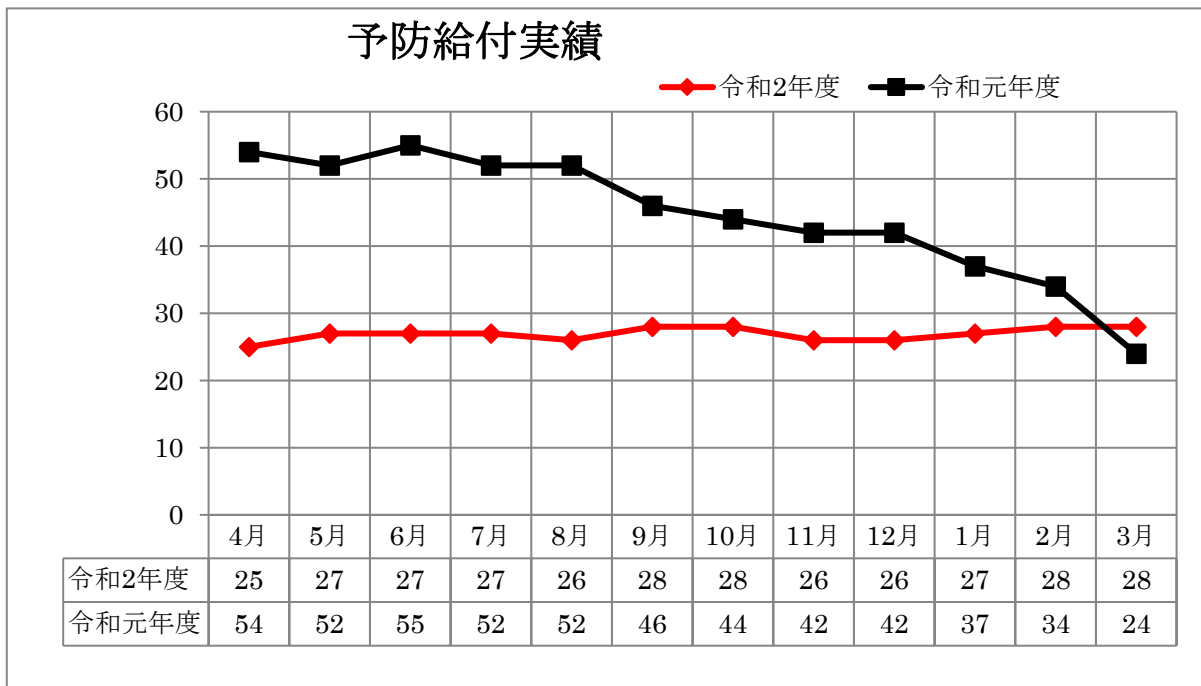


2. 予防給付(委託)実績 (図2)

(単位:件)

		月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援	令和2年度		25	27	27	27	26	28	28	26	26	27	28	28	323
	令和元年度		54	52	55	52	52	46	44	42	42	37	34	24	534

図2 予防給付実績



## 7 令和2年度 研修一覧

特別養護老人ホーム・ケアハウス・デイサービスセンター

実施主体	研修名
厚生労働省	介護施設・事業所の職員向け感染症対策力向上のための研修
京都府	処遇改善加算取得セミナー、個別相談会
京都府老人福祉施設協議会	総会・施設長研修会 京都府社会福祉法人経営者セミナー 運営管理職員研修（BCP策定について）
京都府地域包括ケア推進機構	介護施設における看取りケア研修
京都認知症総合センター	他職種連携研修
社会福祉法人 京都府社会福祉協議会	ハラスメント防止研修
京都府・京都労働局・職業安定所	同一労働同一賃金・ハラスメント対策セミナー
(株)PCM	技能実習養成講習（技能実習責任者、技能実習指導員、生活指導員）
経済産業省 近畿経済産業局	中小企業向け省エネセミナー（実践発表）
久御山町	介護支援専門員研修会
久御山町社会福祉協議会	絆見守りネットワーク全体研修会 町内介護事業所連携推進会議（実践発表）
久御山町地域包括支援センター	地域ケア会議

ヘルパーステーション

実施主体	研修名
京都府介護福祉士会	訪問介護事業・サービス提供責任者研修

居宅介護支援事業所

実施主体	研修名
京都府介護支援専門員会	令和2年度年度介護支援専門員基礎研修
久御山町地域包括支援センター	地域ケア会議
久御山町居宅介護支援事業所連絡会議	事例検討会